vol.4-2 2014.5
かさこマガジン

今日より明日を楽しく生きるためのマガジン

いいことイヤなこと
過去の経験を未来の武器に変える

編集・執筆・撮影=かさこ

人生の時間割をこの手に取り戻せ

時間がない。忙しい。なぜ?
会社を辞めてフリーになった。会社に縛られることなく、自由な身になったはずだった。いつでも好きな旅行に行けると思っていた。
しかし皮肉なことに自由を手にしたはずの私は、むしろ不自由になっていた。会社員だったら、ゴールデンウィークや夏休みに旅行をしていたはずだ。でもフリーになって会社員以上に仕事に追われ、旅行に行けなくなっていた。「このままではいけない」。そう思って自分で夏休みを設定し、ずっと前から行きたいと思っていたモロッコに旅行することにした。
その時、気づいた。会社員であるとかフリーであるとか、そんなことはたいした問題ではないということを。ようは自分の意志次第。強い意志がなければ、どんな恵まれた環境であろうとも、日常に流されて終わってしまう。「いつかしたい」「でも忙しいから無理」という思考停止は人生の息の根を止める。
人生そんなに長くない。あっという間に終わってしまう。「いつかしたい」は「しない」と同義だ。どうしてもやりたいことがあるなら、人生の時間割を見つめ直し、したいことができるよう時間割を組み替えればいい。
そんなことできないって? なぜ? もう僕らは子供じゃない。義務教育で会社に通っているわけではなかろう。この先の人生をバラ色にするのも灰色にするのもすべては自分次第だ。
でもどうやってこの先の未来を希望あふれる日々にすればよいのか。その答えはこれまで自分が経験してきた過去にある。いいこともイヤなこともすべては未来の糧になる。過去の経験を振り返り、それが今後どんな風に活かせるのか、考えてみたらいい。
そんなことしなくても自分のことは自分でわかっているつもりでいながら、人間の記憶ほどいい加減なものはない。だから、記憶より記録。記録を辿って過去の自分を棚卸しすることで、輝かしい未来を築くための時間割が見えてくる。足りないものがあるなら、これから経験すればいい。
昨日より今日を。今日より明日を。多くの人が希望あふれる日々に変わることを願って、この冊子を送りたい。

ばあちゃんの財布から1万円盗んだ 小3の夏休みから“旅”が始まった

「退屈な田舎から早く脱出したい」「自分の家に帰りたい」。毎年、夏休みになると、両親が共働きだったこともあり、静岡のばあちゃん家に預けられた。はじめは楽しい。でもだんだん飽きてくる。もう自分の家に帰りたい。そう思った小学校3年生の夏休みのこと。帰りたいという思いが頂点に達した私は、ばあちゃんの財布からそっと1万円札を抜き出し、バスに乗って静岡駅まで行き、新幹線の切符を買って新横浜まで行き、横浜線と京浜東北線を乗り継ぎ、鶴見駅で下車。駅から20分歩いて、わが家にたどりついた。

一人でバスに乗ったこともなければ新幹線に乗ったこともない。親に連れられた記憶を頼りに、どうやって切符を買ったらよいのか、どこでどう乗り換えればよいのか、必死に思い出した。最も心配だったのは1万円で足りるかということだったが足りた。2万円盗もうか悩んだのだが、1枚で済んでよかった。

突然、家に一人で帰ってきた私を見て、両親はぶったまげるほど驚いていた。私は猛烈に叱られると思った。1万円盗んで、勝手に黙って帰ってきたのだから。しかし驚くべきことに、めったに誉めることのない父親が「よく一人で帰ってこれたな。たいしたもんだ」と誉めてくれたのだ。これは奇跡的な出来事だった。

後にも先にも父親が私を評価してくれたのは、今までこの出来事しかない。5教科でオール5をとっても、地区一番の進学校である川越高校に合格した時も、中央大学法学部に現役で合格した時も誉められた記憶はない。それは今もまったく変わることはない。息子が調子に乗って天狗にならないよう、どんなことをしても父親が喜んではいけないと思い込んでいるからだ。それは私が38歳になった今も同じだ。映画監督デビューし、いよいよ映画が上映になっても、誉め言葉も応援の言葉も一つもなく、「映画は売れないから期待するな」とわざわざ手紙で送ってくる御仁である。

そんな父親が誉めてくれた。しかも絶対に怒られると思ったことに対して。静岡の親戚には「行方不明になった」と大迷惑をかけたが、一人で新幹線に乗って家に帰った経験は、私の人生の中で、親に頼らず自分の意志で行動したはじめての体験だった。

したいことをする。すべては自分次第。イヤイヤ我慢する人生なんて自分の意志でおさらばすればいい。犯罪行為はいけないが、何もそんなことしなくても大人ならできるはずだ。もう子供じゃないのだから。時間をどう使うかは自分次第。

好きから逃げた人生の敗北 100万円出して自費出版

人は大人になると子供の時より賢くなったようでいて、むしろ退化してしまうのではないか。無邪気な思いで、やりたいことに真っ直ぐな気持ちでいる子供を卒業すると、周囲が望んでいることや世間体やどちらが得するかといった価値基準を優先するようになってしまう。自分を“亡くして”しまうのだ。

私もそうだった。無邪気に電車の写真を撮っていた小学生の頃の気持ちは忘れて、いつしかいい高校に入り、いい大学に入り、いい会社に入ることが人生のすべてだと思い込んでいた。高校、大学は筆記試験をパスする能力しか問われないから、受験勉強さえがんばれば結果はついてきた。しかしいざ就職活動になって壁にぶつかった。就職氷河期で思うような就職活動ができなかったのだ。

就職氷河期であることを言い訳に、最も自分のいきたかった旅行業界とマスコミ業界から逃げた。「どうせ受かるわけがない」と受ける前からあきらめた。「仕事なんてラクして金さえもらえればそれでいい」。そんな気持ちから、特にやりたいわけではない仕事の面接に行って、作り上げた志望動機を述べたところで面接に通るわけがない。結果、就職できたのはサラ金だけだった。今まで勉強をがんばってきたのに、いい企業に入れるなんて嘘じゃないか。就職氷河期になるなんてひどいと社会を呪ってみせた。「人生の敗北」だと感じた。でもあきらめきれない夢があった。だから社会人1年目のボーナスをはたいて、100万円出して「エジプト旅行記」という本を自費出版した。やりたいことはいろんなところに行き、写真を撮って、文章を書くことだった。転職する勇気がないから、自費出版し、「旅行作家」という名刺を作って自己満足に浸っていた。

ただ、人生の敗北だと思ったサラ金の仕事は楽しかった。日中の大半はサボり、毎日定時に帰っても、部内でスバ抜けた営業成績を収めて、居心地も良かった。でも仕事が忙しくて病気になってしまい、楽しみにしていた年末年始のインド旅行ができなくなり、人生を考え直した。このままでいいのだろうか。やりたいことがあるなら、今すぐやるべきではないか。もし近いうちに死んでしまうのなら、何を一番したいのか。バックパッカーのような長期の旅行がしたい。これを機にマスコミ業界に転身したい。病気でインド旅行をキャンセルせざるを得なかった不運が、会社を辞めて念願の旅に出て、マスコミに転職するきっかけとなったのだった。

ほんの少しの決断力と、
ほんの少しの非常識さえあれば、
誰だってこんな自由な旅に出れる。
北京地下铁道车票
贰元 报销凭证 08956
西安 西安 兰州 343次
1999年11月26日 21:40开 16车002号下铺
全 价 103.00 元
限乘当日当次车
在3日内到有效
डोलक्स
DE 7
№ 007902

アジア90日間旅行——1999年

■日本 8/1

出発は空港ではなく東京駅。新幹線で小倉まで行き、在来線で下関まで戻り、船で韓国の釜山へ。18時下関発、釜山に翌9時着。船内は雑魚寝スペース。子供たちが枕投げで大騒ぎしていた。

■韓国 8/2~8/4

釜山から列車で4時間半かけソウルへ。ソウルに留学中の大学の後輩の寮で泊まる。記録的大雨で観光できず、2泊後、韓国·仁川から船で25時間乗り、中国·天津へ。

■北京 8/5~8/10

北京留学中の友人に会い、案内してもらう。北京ダック2人分で450円に感動。ギョーザが約30種類ある店もうまかった。語学ができる人がいるとうまいものにありつける。

■モンゴル 8/11~8/17

北京から列車に30時間乗り、モンゴルへ。さらにオンボロワゴン車に乗って10時間、草原を走りカラコルムへ。ウランバートルでは路上のバスケに混じったりして遊んだ。

■シルクロード 8/18~8/26

モンゴルから飛行機で北京へ。北京→洛陽→西安→蘭州と列車やバスで移動し、石窟などを見学。各地で中国人に親切にしてもらう。蘭州の山奥にある炳霊寺石窟がすごかった。

■シルクロード 8/27~9/5

蘭州→嘉峪関→トルファン→ウルムチ→敦煌→ゴルムドと遺跡を巡りながらの列車の旅。トルファンで1年前に撮影した子供に再会し、写真を渡したら喜んでくれた。

■チベット 9/6~9/11

ゴルムドから標高5000mの峠を2つ越え、25時間かけてバスでチベット·ラサへ。秘境感はないが、チベット寺院や僧たちの光景は新鮮。旅行者が多く、ホテルの中庭で宴会した。

■チベット 9/12~9/21

ドミトリーで知り合った日本人ら5人で、地方の町ギャンツェ、シガツェを旅行。その後、ネパール国境行きの車に乗り、標高5000mの峠をいくつも越え、ネパールへ。

■ネパール 9/22~10/2

旅行者天国カトマンズで各国グルメを格安で楽しみながら寺院めぐりや日本人旅行者らと過ごす完全沈没生活。湖畔の町ポカラに5日間滞在し、読書やノートの整理をする。

■ネパール 10/3~10/17

カトマンズに戻って完全沈没生活。安宿の屋上で日本から送ってもらったミスチルCDを聴いて過ごす日々。10/12~15まで日本から彼女(現妻)が来て一緒にネパールを旅行。

■インド 10/18~10/29

ネパールからバスでインドへ。インドに来た途端、腹を下す。ガンジス川が流れるバラナシでのんびり過ごすも、体調が悪く、「そうだ日本に帰ろう」と突然、決め、10/29に帰国。

■シルクロード 11/17~12/17

帰国したが行きたい場所がまだあるので再出発。神戸港→中国·天津港→北京→西安→嘉峪関→ウルムチ→カザフスタン→ウズベキスタン→トルコの旅。

日常から解放される快感と苦痛

フィリピン・セブ島・カルボンマーケット

旅行なんて金はかかるは、時間は取られるは、疲れるは、トラブルは多いはで、はっきりいって大変だ。でも旅はやめられない。日本にいる日常の役回りや立場やしがらみをすべてリセットすることができ、まっさらな一人の人間として非日常空間に放り込まれる開放感がたまらないからだ。

日本から飛び立ち、異国の空港に降り立った時の、不安な気持ちはありつつ、日常から離れ、これから知らない世界に飛び込むことへのワクワク感。何物にもかえがたい快感だ。誰も自分のことは知らない。自分も誰も知らない。ゼロから世界を作り上げていくことの楽しさは、海外に行くからこそできる。

日本にいる限り、いろいろなしがらみにがんじがらめになり、自分をリセットするのは難しい。そう、海外旅行は、人生のリセットボタンなのだ。

もちろん、いいことばかりではない。むしろイヤなことの方が多い。不慣れな場所で、習慣も文化も言葉も違う。まして旅行者という目で見られることでトラブルも多い。行ってみたい場所に行くために、何時間もオンボロバスに乗らなければならないこともあり、体力的にもしんどい。でもそれだけの苦痛を背負っても、その代償以上に素晴らしい景色や出来事に出会うことができる。だから旅はやめられない。苦痛の先に感動があるから。

■チベット僧宅に招かれご馳走に：中国・チベット

チベットの集落を歩いていると、チベット僧に声をかけられ、自宅でお茶や食事をご馳走してくれることが度々ある。他の国ならトラブルに発展したり、金を請求されたりするが、チベットでは皆無。もてなしてくれる。

■チベット難民キャンプの笑顔：インド・ラダック

インドのラダック地方は中国から亡命・脱出したチベット人たちも多く住み、チベット寺院が多く存在する。難民キャンプもあるのだが、子供たちは無邪気に遊んでいた。いつか故郷に帰れる日が来るといいなと思う。

■町中の人を撮影するハメに！：インド・マトゥーラ

「俺の写真を撮ってくれ！」。ヒンズー教の聖地マトゥーラでカメラを持って歩いていたら、そこら中からむさくるしいおっさんたちが撮ってくれとせがみ、何枚も撮ることに。2日目はカメラをぶら下げるのをやめた（笑）。

■線を踏み越えれば独裁国家の恐怖：韓国・38度線

1本の人為的な線で同一民族が隔てられる悲劇。しかも一歩足を踏み入れたら二度と帰れるかわからぬ独裁国家。しかし両国が対立しているおかげでDNZ（非武装中立地帯）は豊かな自然が回復しているという皮肉な現実も。

■古き良き中国的雰囲気の水郷村：中国・上海郊外

北京や上海は開発が進み、近代的な味気ない街並みが多いが、古き良き中国的雰囲気の街並みが残るのが、上海郊外に点在する水郷村。狭い水路や路地が入り組む、映画の舞台セットのような街並みが広がっている。

■少数民族の市場めぐり：中国・雲南省

ペー族をはじめ様々な少数民族が住む雲南省。大理の郊外には曜日ごとに市場が開かれ、民族衣装に身をまとった住民たちの活き活きとした姿を見ることができる。標高2000mほどあり、景色も素晴らしい。

■夢の旅行者天国！：ネパール・カトマンズ

今まで食べた中で最もおいしいイタリア料理店があり、しかも200~300円で食べれたり、焼きたてパンとコーヒーをテラスで食べれたり、沈没するには最高の場所。寺院や仏塔がある古い街並みは世界遺産で散歩も楽しい。

■カラフルな衣装の人だらけ！：ベトナム・バックハー

ベトナム北部の山岳地帯。市場が開く日になるとカラフルな民族衣装をまとった人々が買い物に！この写真の衣装を売っている店も多い。鶏、豚、牛、犬なども売られており、泣き叫ぶ家畜を引っ張っていく姿が興味深い。

■金ぴか仏像500体の珍スポット：中国・香港

香港に来たら必ず訪れたい爆笑珍スポット。本堂までの坂道に500体もの金ピカ仏像が立ち並び、しかもその表情がふざけたものばかり! でも決していかがわしいテーマパークではなく由緒ある寺みたい。

■まるでUFO?! 謎の円盤型建造物：中国・福建省

上から見るとまるでUFO！しかもいくつもある。外観は要塞。内部は円形の集合住宅となっている不思議な建物。中で家畜を飼っていたりもする。しかも今もなお人が住んでいる土楼も多いというのが驚き。

■世界一豪華なスターバックス：アラブ首長国連邦・ドバイ

見どころがほとんどなく、1日いれば十分なドバイだが、滞在するならぜひ行きたいのがこのスタバ。内装がハンパない！このスタバのある場所に行くまでのモノレール（地下鉄）の先頭車両から眺める車窓も素晴らしい。

■遺跡めぐりサイクリング：タイ・アユタヤ

数々の遺跡を自転車で自由に巡ることができる。遺跡が多いので、2日間、朝から晩までチャリこいで楽しんだ。小舟に乗っていく遺跡や、象に乗せてくれる場所もある。町は意外と都会でマクドナルドもあるほど。

■酔っ払いを撃退した子供たち：フィリピン・セブ島

微笑みの国はタイではなくフィリピンだと思う。実に親切。セブ島では村を案内してくれた子供たち。道の途中で酔っ払いに声をかけられた私に「あの人には近づいちゃダメ！」と守ってくれたりもした。

■中国旅行の楽しみ：朝ごはんに小龍包！

中国旅行の楽しみは朝食にその辺のローカルな食堂で小龍包を食べること。だいたい100円以下でほかほかのおいしい小龍包がたらふく食べられる。ホテルで朝食食べるなんてもったいない！

■白亜の絶壁！：イギリス・セブンシスターズ

白亜の絶壁が連なる不思議な光景が見れる場所。絶壁手前は羊や牛がいるのどかな牧草地が広がっていてWindowsの壁紙みたいな景色。最寄駅からここまで乗る2階建てバスから見る車窓も素敵。ロンドンから日帰り可能。

■ガーゴイルだらけの寺院：フランス・パリ

パリの名所ノートルダム大聖堂は中を見ただけで満足してはいけない。大行列となっている屋上へ上ると、そこには奇妙奇天烈なガーゴイルがいっぱい!パリの町並みも一望でき、並んででも行きたいスポット。

■中世の町で世界一のジェラートを：イタリア・サンジミニャーノ

中世にタイムスリップしたかのような古い街並みが残る世界遺産の町。塔の上から眺める街並みと、トスカーナ地方の景色は最高。町には世界ジェラートチャンピオンに輝いた店があるので、ジェラートを食べて帰りたい。

■工場廃墟が世界遺産！：ドイツ・フェルクリンゲン製鉄所

工場廃墟が世界遺産！しかも工場を下から眺めるだけでなく、コンビナート群のむき出しの階段を上り、工場の上に登って見学ができる世界でも稀な場所。敷地も広く、3~4時間は楽しめる。パリから鉄道で2時間で行ける。

■ヨーロッパの楽しみ：レトロモダンな地下鉄構内

ロンドン、パリなどヨーロッパの大都市の地下鉄がすごい。何がすごいかって駅構内の雰囲気。SF的な近未来っぽい感じもありながら、レトロな雰囲気もあり、歩いていてワクワクする楽しい場所。

■迷宮都市の魅惑：モロッコ・メクネス

狭い通り沿いに店が連なる市場のような商店街が迷路みたいに入り組んだ場所が町。路地の奥にある貴族のお屋敷を改装したホテルに泊まり、地元の人のたまり場のカフェでくつろぐ。モロッコで一番おすすめの町です。

■王家の谷へトレッキング：エジプト・ルクソール

ナイル川を小舟で渡り、砂漠地帯に点在する遺跡を自転車で回れる。さらにハトシェプスト女王葬祭殿の裏手にある山を登り、王家の谷までトレッキングで行ける。山の頂上から眺める砂漠地帯は絶景！

■地元食堂「ミルクバー」がうまい！：ポーランド・クラクフ

高級レストラン取材ばかりで口に合わなかったのだが、地元ガイドさんが連れて行ってくれたポーランドの大衆食堂＝ミルクバーが安くておいしくて感動!具だくさんのスープが美味。クラクフは古都で見どころも多い。

■赤茶屋根が連なる百塔の町：チェコ・プラハ

今まで行った街の中で飛び抜けて美しいのがプラハ。丘にそびえる城。長さ500mもあり両側に石像が連なるカレル橋。数々の教会と赤茶屋根の家並み。夜はチェコビールとグヤーシュで1日の疲れを癒せる。

■湖畔の町の美しさ：オーストリア・ハルシュタット

山々に囲まれた湖畔にある、かわいらしい木造家屋が立ち並ぶ小さな美しい町。頭がい骨が約1000個あるという納骨堂や、山の頂上にある世界最古の岩塩坑などもある。

北中米

■ケーブルカーで町めぐり：アメリカ・サンフランシスコ

アップダウンが激しい坂の多い町を、テーマパークのアトラクションのようなケーブルカーで見どころを回れる。シーフード屋台街やチャイナタウンなど、町の様子も多彩で楽しい。

■イカれたテーマパーク！：アメリカ・ラスベガス

3週間取材で滞在したが、町全体が巨大テーマパークのようなすごい場所。カジノをしなくても、無料ショーなど楽しめる仕掛けがたくさんある。徹底したイカれっぷりは目を見張る。

■グランドキャニオンに泊まる：アメリカ・アリゾナ州

目の前に広がる壮大な景色の前に、なんとロッジがあり泊まることができる!さらに山を下りていく道もある。いつか谷底にあるホテルに泊まってみたい。夕暮れ時は特に美しい。

■謎の古代遺跡いっぱい！：メキシコ各地

世界遺産が実は31もある国。謎に包まれた数多くの巨石遺跡が残るマヤ・アステカ文明の中心地で巨大ピラミッドも観光できる。町の中心部はヨーロッパ風で教会も多い。

世界はおもしろさであふれてる

モロッコ・ムーレイ・イドリス

生きていても「たいしておもしろいことはない」とずっと思っていた。「何かおもしろいことないか」と口癖のようにつぶやきながら、何一つ、自分から行動しようとせず、おもしろいことが来るのを待っていた。だから思考回路はネガティブ一色。マイナス思考のプロだった。

でも狭い日常の世界から飛び出し、国内外へ旅をするようになり、世界はおもしろさであふれていることに気づいた。気づけるようになったのは写真を撮り始めたから。カメラのおかげで、今まで見過ごしていた景色がありありと浮かび上がってきた。ちゃんと目を見開いてこの世を見れば、美しいものやおもしろいものであふれている。

家に閉じこもって、ああでもないこうでもないと頭の中だけでシミュレーションしても、心は落ち込むばかり。だからカメラを持って町に出ればいい。いかに今まで世界を見ているようで見ていなかったかに気づかされるだろう。

何も海外に出かけなくても、日本だっておもしろい場所はたくさんある。今まで日本はつまらないと思い込んでいたが、楽しい場所がいっぱいあることを知った。ネガティブ思考から脱してポジティブ思考になるには、写真を撮るのが一番手っ取り早い。きっと世界が輝いて見えるはず。

ハニベ巌窟院：石川県小松市

全長150mの洞窟に何体もの鬼が登場。地獄絵巻が繰り広げられる！

立山：富山県立山町

標高2450mまでバスで行けて、3000mの山に2時間で登れる！

別子銅山：愛媛県新居浜市

日本のマチュピチュ遺跡とも言われる観光地化された銅山廃墟。

竹田城：兵庫県朝来市

天空の城。景色の良さと城跡の儚さがたまらない。

吉野ヶ里遺跡：佐賀県吉野ヶ里町

弥生時代にタイムスリップ！復元でもかなり巨大で雰囲気満点。

高千穂神楽：宮崎県高千穂町

高千穂の秋元集落で行われる夜通し神楽。33の演目が披露される。

うまい！B級グルメ・カキオコ

岡山県備前市日生地区の名物。カキが6つも入った超グルメなお好み焼き。

知覧：鹿児島県南九州市

国民を殺して兵器とさせた特攻の資料を記念館で見ることができる。

日本おすすめスポット

工場夜景：三重県四日市市

川崎と並び工場夜景が素晴らしい。ポートビルからの眺めは絶景。

飛鳥：奈良県明日香村

日本の桃源郷！稲穂が実る秋がおすすめ。田園地帯ほか古墳もある。

尾去沢鉱山：秋田県鹿角市

採掘の様子をリアルなロウ人形で坑道内に再現した観光鉱山。

美瑛：北海道美瑛町

一面に広がる緑の丘と青い空の中、サイクリングを楽しめる。

道祖神めぐり：秋田県湯沢市など

藁や木で作られた道祖神が点在。中には高さ4mあるものも！

松尾鉱山跡：岩手県八幡平市

「陸の軍艦島」とも呼ばれる廃墟の傑作。住宅跡がいくつも残る。

明治村：愛知県犬山市

重要文化財10棟含む60以上の建築物が移設・保存されている。

地獄谷温泉：長野県下高井郡

温泉に入るサルを見れる。冬は雪で遊ぶ子ザルがかわいい！

藪塚石切り場：群馬県太田市

温泉街の外れの山の中にある巨石廃墟！

桃太郎神社：愛知県犬山市

爆笑必至！桃太郎や鬼などリアルなオブジェがいっぱい。

大室山：静岡県伊東市

空中散歩を楽しめる！リフトで上がり山頂散歩ができる。

タイヤ公園：東京都大田区

タイヤでできた怪獣がいる珍公園。子供も大人も驚くはず。

離島おすすめスポット

■日本一の水族館：沖縄県沖縄本島

日本とは違う雰囲気が楽しい沖縄本島。グスクなどの世界遺産もいいけど、美ら海水族館の巨大水そうのスケールがすごい！

■リスザルの楽園：沖縄県石垣島

沖縄の伝統家屋が集まるやいま村では、家屋よりも最大の見どころはリスザルの森！人なつっこくて数が多くて楽しい。

■白砂と伝統集落：沖縄県竹富島

一番大好きな離島で4回ぐらい行っている。のどかな集落を散策したり、ビーチでまったりできる沈没地。

■沖縄の楽しみ：沖縄そば

沖縄に行くと毎日食べてしまう、薄くもなく濃くもない絶妙な味。そばというより細うどん。具の豚肉がうまい。

■ネットのアイコンは竹富島の猫！

ツイッターやフェイスブックのアイコンで使っているのは、竹富島のビーチにいるノラ猫の写真です。

■廃墟の最高傑作：長崎県軍艦島

観光地化された廃墟という貴重な場所。高層住宅群廃墟は海から見ても異様。できれば上陸ツアーに参加したい。

■100棟の団地廃墟：長崎県池島

炭鉱島で栄えたピーク時には7700人もの人が住んでいたという。団地廃墟が数多く残る異様な島。猫も多い。

■数々のキリシタン教会：長崎県五島列島

迫害されたキリスト教徒たちが五島列島に流れつき、数々の教会を建築。和洋折衷的なユニークな教会を見学できる。うどんや海の幸が名物。

■銅精錬所廃墟：岡山県犬島

瀬戸内海に浮かぶ銅精錬所の廃墟。観光地化されているので安心して見れる。カラミ煉瓦と青い海とのコントラストが印象的。一部は美術館。

■毒ガス製造島：広島県大久野島

かつて地図から消された町。日本軍の毒ガス兵器の工場があったから。要塞跡など遺構が残る。国民休暇村があり宿泊も可。うさぎが多い。

■映画のセットが魅力：香川県小豆島

映画「二十四の瞳」のセットが残されており、昭和初期の面影を感じられる。島はオリーブとそうめんが名物。そうめんがやたらうまい。

■猫が神様の島：宮城県田代島

犬禁制。猫が神様として崇められた猫神社があり、人口より猫の数が多い猫の島。311で港が被災したが大半の猫は無事だったという。

■要塞廃墟の島：神奈川県猿島

旧日本軍の要塞跡が残る島。探検気分で島散策が楽しめる。現役艦船を間近で見れる横須賀軍港めぐりも合わせて観光するとよい。

■遊び心満載の島：愛知県佐久島

名古屋から日帰り可能。変なオブジェが島のそこかしこにあり楽しい。古い街並みも情緒があってよい。直島の東海版だと思ったらいい。

■琵琶湖に浮かぶ猫島：滋賀県沖島

湖に浮かぶ島なのに人が住んでいる珍しい島。やたら猫が多く、のんびりくつろいでいる。島と合わせて近江八幡の水郷めぐりをしたい。

■戦争廃墟が残る：和歌山県友ヶ島

旧日本軍の要塞島。保存状態がわりとよい砲台跡がいくつか点在し、海軍聴音所の建物廃墟も見事。猿島より規模が大きく、見どころも多い。

カメラのシャッターを
心のシャッターより

写真を撮るようになり、日常の小さな幸せに気づくようになった。

見える世界は自分の捉え方次第。

写真を撮るようになり、動物が好きになった。

写真を撮るようになり、人が好きになれた。

写真が自分と世界を肯定してくれる。

写真を撮るようになり、景色の美しさを楽しめるようになった。

人生がうまくいかない。こんな風になりたいけど、壁が突破できないなど、行き詰まり感があるなら、いろんな人と会って話を聞けばいい。成功している人とか、異分野の人、年が離れた人もいい。人と話すことで人生が開けるヒントが得られるはず。

人に会ったら、自分のしたいことを話す。夢の実現を手伝ってくれる人が現れるだろう。したいことがあるなら100人に語れ。さすれば夢は実現する。ウソだと思うのなら実践してみればいい。

ただし、いい出会いを求めるなら、自分のセルフイメージを変えないとダメだ。類は友を呼ぶ。自分をダメ人間だと思い込んでいると、ダメ人間ばかり集まってきて余計にダメになる。理想の姿を想像し、実現している人とかかわりを持つようにする。自分一人では成長に限界がある。人は人との出会いによって大きく飛躍できる。

自分が変われば出会いも変わる
人との出会いが人生を劇的に変える
～いろんな人に会って話を聞く～

311でわかったこと。それはあたりまえの日常が突如奪われる恐怖だ。自然災害だけでなく、事故や事件、テロや戦争などにより、何の変哲もない日常が二度と戻らないものになってしまうこともある。想定外ではない。

いかにあたりまえの日常が尊く素晴らしいことか。その幸せをかみしめて生きれば、今の人生は大きく変わるはず。不満や不安のあら探しをして生きるなんてもったいない。

ましてや若いうちから年金不安なんかしても意味がない。遠い未来がどうなるかなんて誰もわからない。自分が生きているかもわからない。世界があるかもわからない。ならば目の前の今を大切に、1分1秒を大切に生きること。今を精一杯楽しく生きればいいじゃないか。その延長線上にしか幸せな未来はない。生きているのは奇跡的なことなのだから。

何の変哲もない毎日のありがたみ
あたりまえの日常こそ最高の幸せ
～遠い未来より今を精一杯生きる～

震災前の宮城県石巻市鮎川港

震災後の宮城県石巻市鮎川港

原発を追い出した三重県の港

高放射線量で無人と化した双葉町

記憶より記録

記憶なんていい加減であいまい。都合のいいように改変されることもある。不正確な記憶から、現在、未来を考えても、正確な道筋は見えない。だから記憶より記録。記録は未来を導く道しるべとなる。

過ちを繰り返さないために

記録は正確に過去の事実を残せる。人や国が犯した過ちを記録しておけば、その時の教訓をもとに、同じ過ちを繰り返さずに済む。「原子力　明るい未来のエネルギー」と書かれた看板は、人が住めなくなった死の町＝福島県双葉町にあった。これぞ国の欺瞞がわかる確固とした証拠だ。原発がもたらしたのは明るい未来ではなく、二度と故郷に帰れない絶望だった。

一方、原発計画がありながら住民の反対により、原発を建てさせなかった三重県芦浜原発予定地そばには、「原発反対 海を守ろう」というペイントが残っていた。人はもちろん住んでいる。明るい未来を喧伝した町と海を守るために原発に反対した町の明暗は、記録が雄弁に物語る。

津波被災地では、津波の悲惨さを後世に伝えようと、震災遺構を残そうという動きがある。だが、悲しい現実を思い出したくないという理由から、次々と遺構が撤去されてもいる。これまで何度も津波が押し寄せた場所にもかかわらず、過去の教訓を活かせないのは忘れてしまうからだ。被災者の中には津波の碑を建てる人もいた。子孫に危険を伝えるために。大災害ですら記憶が薄れてしまうから。

消えゆく街並み～時は二度と戻らない～

全国各地の古い街並みを撮影しているが、数カ月後に再訪すると、街並みがすべて壊されてしまった場所もある。あまりのあっけなさに愕然とした。今までどんな街並みだったか、思い出せなかった。

あたりまえの日常がある日、突然、消えてしまうことがある。自然災害により、慣れ親しんだわが町の光景が消え去ってしまうこともある。「災害前の自分の家や街並みを写真に撮っておけばよかった」と嘆く人も多かった。時は二度と戻らない。だからあたりまえの日常を記録に残しておきたい。

思い出を残す～子供の成長

毎日見ているわが子。あまり変わっていないように見えて、1年前の写真と比べると、その変わりように驚く。ハイハイすらできなかった赤ちゃんが、今では立つようになり、「かさこマガジン」を開いて見ることもできるようになった。

子供に限らず、人は変わる。でも頻繁に会っていると変わっていないように思うし、ありがたみが薄れるから、写真を撮るのは面倒になる。でも時が過ぎた時、ありふれた日常の1シーンがかけがえのない思い出になる。その思い出が生きるよすがになることもある。思い出の記録は貴重な財産になる。

現場主義～乙武騒動

1日約7000アクセスの私のブログに、ある日約40万アクセスが集まった。乙武氏のレストラン入店拒否ツイート騒動に関する記事を書いたからだ。なぜこれほどのアクセスが集まったのか。私が実際に店に行き、いかに人を持ち上げて運ぶのが困難かがわかるビル内部の写真を撮影して載せたからだ。たったそれだけのことでアクセスが50倍になった。

人は憶測で物を語る。だから間違う。間違わないためには現場に行き、事実を確認し、記録に残せばいい。状況証拠がわかる記録により、憶測での水掛け論から脱し、事実となる情報共有すればまともな議論ができるようになる。写真という記録は問題の本質を見極めるための貴重な判断材料となる。

津波で建物上に乗り上げたバス

もう閉店してしまった新橋の古い居酒屋

再開発で古い街並みが消えていく

子供の成長はあっという間

悪いこともイヤなことも人生を好転させる契機になる

ほんの少しの非常識が閉塞した人生を切り拓いてくれる

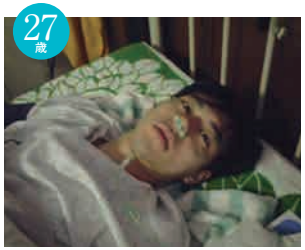
サラ金からマスコミに転身できた大胆発言

25歳

サラ金会社を辞めて旅に出た後マスコミに転職しようとしたが、未経験ゆえ次々と面接で落とされた。まともにやったのでは受からない。そこである編プロの面接で「3年でフリーになります」と宣言。この発言に賛否あったらしいが「未経験でも意気込みのある人がいい」と採用が決まった。この一言がなければ今の自分はない。

寝たきり生活からトラベルライターに転身

27歳



マスコミ業界に潜り込めたが、やりたい分野の仕事ではない。不満がたまり、さらに連日始発で帰宅し定時で来るハードな生活が続いたせいか、突如椎間板ヘルニアになり歩けなくなった。切開手術と1カ月の入院を機にこの会社を辞めようと決心。旅行ガイドブック制作の編プロに転職した。病気がなければ転職を先延ばししていたかもしれない。

飛び込み営業で写真集出版決まる

32歳

写真集を出したいと思い、会社員時代から出版社に営業していたが門前払いばかり。海外子供写真集を売り込もうと、ある出版社に電話。すぐ断られたが「猫写真はどうですか?」と言ったら話を聞いてくれることに。検討の結果、ダメだったが「工場写真はどうですか?」と持ちかけたら出版決定! たった1本の電話が運命を変える。

自費で写真集出版し個人で無料配布

35歳

自分の幅広い活動をわかりやすく説明できるツールが欲しいと考え、16ページの冊子「かさこマガジン」を作ることに。ブログ読者にも年賀状代わりに無料で郵送しようと1000部印刷。自費で20万円近くかかったが、これが縁で新たな仕事が入ってきたりした。会社を辞めてフリーになれたのもこうしたツールがあるおかげ。

10万円でHP一新仕事が急増

36歳

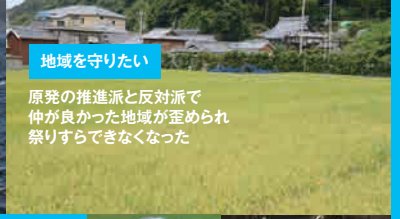
「かさこさんの活動は素晴らしいのにホームページがいまいち」と読者の方から指摘していただいた。自分で作るのは限界と感じていたこともあり、プロに10万円払ってリニューアルすることに。結果、毎月5万円の連載仕事が入るなど、仕事の問い合わせが急増。自分に投資し、お金をかけるべきところにかければ結果は後からついてくる。

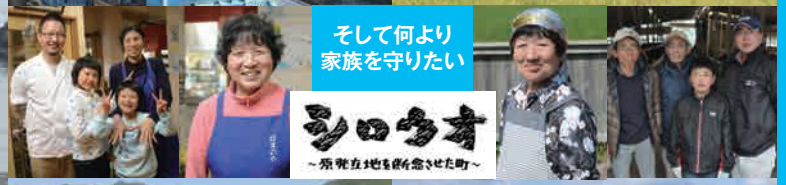
社長とケンカし会社を辞めて飛躍

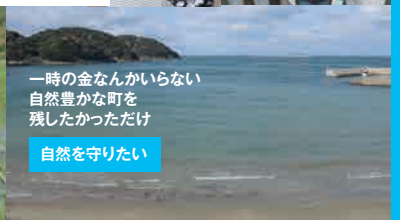
37歳

社長の息子の著書の批判レビューを書いたために、社長とケンカになり、会社を辞めることに。子供が生まれるというのにどうしようとも思ったが、辞めたおかげで収入も増えたし、時間も自由に使えるし、映画制作や講演など、会社員時代にはできなかったことができるようになった。人生、ピンチほどチャンスに変わる。いや、変えなくてはならない。

映画監督になりました きっかけは「かさこマガジン」







映画紹介

30年以上も前、「必ず原発事故が起きるから危険な原発は建てさせない」と反対運動を行い、原発計画を断念させた場所があった。紀伊水道をはさんで、双方の住民たちが協力した徳島県阿南市と和歌山県日高町だ。なぜチェルノブイリや福島原発事故が起きる前に、原発マネーにたぶらかされず、原発を追い出すことができたのか。当時、反対運動に関わった住民に取材し、彼らの証言を中心に約105分の映像にまとめた。

上映情報は公式ホームページ
http://www.kasako.com/eiga1.html

「かさこさん、映画監督やりませんか?」――。

2013年1月2日。一度しか会ったことがない72歳の男性=矢間秀次郎氏から突然電話が掛かってきた。「はい! やります!」なんて答えるわけがない。新手の詐欺話なのか、はたまた新年の酔っ払いなのか。でも本気らしい。1月10日に会って話を聞いた。「なぜ映画や映像の素人の私に?」。それが最大の疑問だ。彼は明快に答えた。「これですよ。これ。この編集・構成は素晴らしい!」。矢間氏が指し示したのは「かさこマガジン3」だった。

彼にマガジンを送ったのはたまたまだ。一度、会って名刺交換をしていたので、機械的にマガジンを送ったに過ぎない。マガジンの部数が少なかったら「この人には送らなくてもいいかな」と選別しかねない関係性しかなかった。まさかこの人からこんな反応があるとは夢にも思わなかった。もし見返りや反応がありそうな人だけにマガジンを送るというスタンスだったら、私が映画監督になることは一生なかっただろう。

1月16日から5日間。矢間氏と三重、和歌山、徳島の3県の映画ロケハン二人旅に出かけていた。映画の話に意気投合したからというより、原発を追い出した町の住民取材ができることに興味があったからだ。またこの時点で、私は監督ではなく助監督か広報にしてもらい、監督は映画制作に実績のある人から選ぶことで合意していた。

その後、矢間氏は様々な映画監督と会い、オーディションをしていたのだが、私に監督をお願いしたいとの結論に至った。2月24日のことだ。私は「監督をするなら映画の内容構成の最終決定権はすべて私に持たせてほしい」と話した。船頭が2人いたらうまくいかないと思ったからだ。3時間以上、東京駅の喫茶店で激論した。最終的に矢間氏は編集についてすべて私に任せてくれた。これはすごいことだ。彼は自身で映画の構想を描き、製作費用もすべて出している。ならばどこの馬の骨ともわからない、映画素人なのに「内容は私が最終的に決める」という生意気な37歳の若造を監督にしなくても、自分で監督をすればいいわけだ。しかし矢間氏は任せてくれた。

3月からロケがスタート。矢間氏は前から知り合いでもないのに、カメラマンに中井正義氏、録音に田辺信道氏という素晴らしい人材を探し出してきた。でもカメラマンの方も録音の方も不安だったはずだ。監督は素人でまだ30代。しかも72歳の一個人の出資の映画だ。途中で空中分解し、完成までこぎつけられるかどうかもわからない。

ただ幸いにして、かつて原発を追い出した町の住民に話を聞き、今の原発問題の欺瞞を暴き出すというテーマと切り口が斬新だったことと、映画素人の若い監督だからこそスタッフが支えなくてはと多分思ってくれたであろうこともあり、11月末に映画完成にこぎつけた。

映画製作に関わったことがない私だが、撮影のメインはインタビューだったので、ライターの私にとっては普段仕事で何度も経験していることなのでやりやすかった。また撮影した映像をもとに、いる/いらないの判断を行い、どういう順番で並べるかを考え、構成していく作業は、分野は違えど、普段仕事で何度となく行っている冊子の編集作業に似た部分があったので、それほど違和感はなかった。それはまさに「かさこマガジン」を作るプロセスに似ていた。矢間氏が「かさこマガジン」の編集力・構成力を見て、私を監督に抜擢したのは理に適っていたことなのかもしれない。

チャンスなんてどこにどう転んでいるかわからない。私が映画監督になったのは、自費で数十万円かけて「かさこマガジン」という個人をブランディングする武器を作ったことと、目先の損得考えず、欲しい人には手当たり次第送ったことが要因だ。

そして何より、私には多くの人に伝えたいことがあった。知ってほしいと思うことがあった。生まれたばかりのわが子のためにも、これ以上、原発問題を深刻化させてはならないとの強い思いがあった。それにシンクロするように、映画の話が来た。映画製作について未経験であろうとも、大事なのは技術や知識よりも伝えたいことがあるかどうかだ。だから未経験だろうとトライした。表現手段にとらわれる必要はないのだ。

人は技術や知識がないと「自分には無理」と簡単にあきらめてしまうが、やりたいことが明確なら、手段や方法なんてどうとでもなるし、たいした問題にはならない。逆にどれだけ素晴らしい技術や知識があっても、伝えたい、作りたい、やりたいという思いがなければ、人の心を動かす作品などできるわけがない。だから自分の気持ちに正直になり、やりたいことをすればいい。手段や方法にとらわれる必要はない。強い気持ちがあれば、何だってできる。才能とは持続する情熱なのだ。

それにしても人生ってほんとおもしろい。「かさこマガジン」を数十万円かけて作り、数千人に無料で配布するという奇特な行為をしたことで、いろんな人やチャンスと巡り合えた。自分が動けば、運もチャンスもやってくる。失敗を恐れず行動することの大切さをあらためて痛感した。待ちではなく自ら動くくせをつけることが、人生を楽しく生きるための秘訣だと思う。

方法や手段は何だっていい

写真教室で講師を務めた時のこと。カメラマンにもかかわらず、写真教室らしからぬアドバイスを行った。「写真を撮るのが難しい被写体は写真を撮る必要はない。例えば、ダンス、ライブ、水族館、動物、子供など。こうした被写体はむしろ動画に向いている。写真が難しいなら動画で撮ればいい」。カメラを仕事にしたい人に教えるなら、難しい被写体の撮り方を教えるが、普通の人が人生を楽しむ一手段として感動を記録にとどめておきたいと思うのなら、写真にこだわる必要はない。大事なのは写真を撮ることではなく、感動したものを記録に残し、後で見返して楽しんだり、人に見せて楽しんでもらったりすること。ならば動画だっていい。最近のカメラやスマホなら動画機能もついているし。

～手段が目的化するから間違える

手段はケースバイケースで最適なものを選べばいい。文章がいい場合もあれば、写真がいい場合もあるし、動画がいいこともある。ネットの方がいい場合もあれば、紙の方がいい時もある。メールの方が伝えやすいこともあれば、会って話をした方がいいこともある。一つの手段にとらわれ、手段を使うことだけが目的化してしまうから、本末転倒な結果を招いてしまう。

今、自分がしようとしている手段・方法・道具は目的を実現するために最適なのか、問い直してみてほしい。世の中の大半の問題が起きているのは手段が目的化してしまうから。大事なのは目的であって手段ではない。だから私は手段にこだわらない。手段に振り回されないように気をつけてほしい。

著書一覧

講演

スライドを見せながら、口頭で説明した方が伝わりやすいものもあります。そこで様々なテーマで講演を実施。中学校や専門学校でキャリア教育についての講演も行っています。講演依頼がありましたら打診レベルで構いませんので、遠慮なくメールください。講演に参加できない方のために講演スライド+音声解説の動画データ(DVD)の販売もしています。

■主な講演内容

「好きを仕事にするブログ術」
「正社員全滅時代のセルフブランディング術」
「写真がうまくなる! 難しい操作不要の簡単写真撮影術」

DVD販売中

「被災地取材を通した防災の教訓」
中学校キャリア教育講演「つまらない大人にならないために」
http://www.youtube.com/kasakotaka

YouTubeで無料で見れる

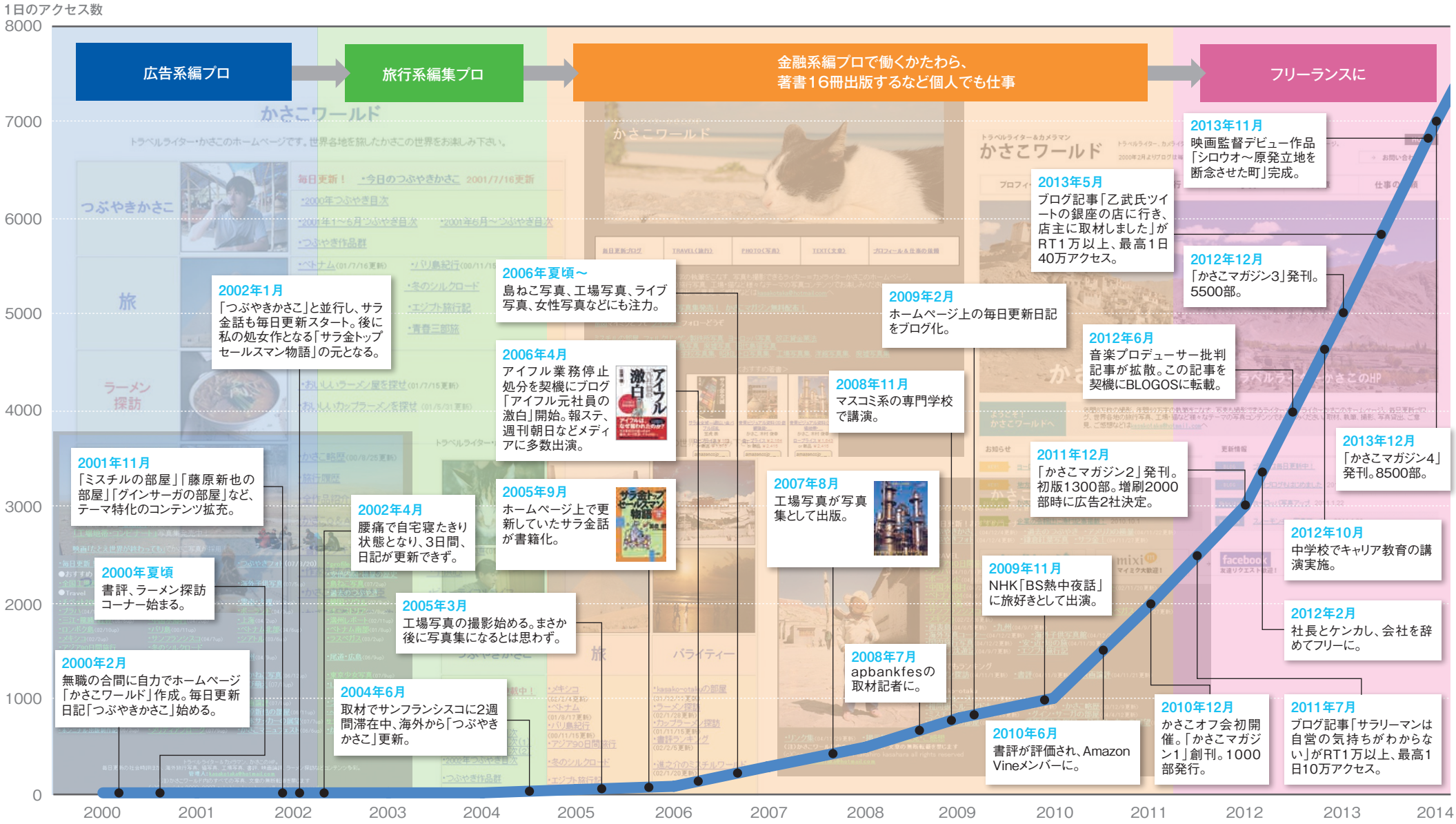
2014年スタート 好きを仕事にする大人塾「かさこ塾」開講!

スケジュール

毎週1回、全4回の講義形式。
一期生:2014年2月~3月 ※終了
二期生:2014年5月~6月 ※満席
三期生以降の募集は、ブログをご覧ください。

会社にしがみついていても、
安定した生活が約束できなくなった時代。
今こそネットで好きなことを情報発信し、
個人のブランド力を構築し、
「好きを仕事」にすることこそ、
今後の厳しい時代を生き抜き、人生を楽しむ最善の道。
ネットを中心にセルフブランディングを実践し、
会社に勤めながら著書18冊出版。
現在は世界各地を飛び回る、
フリーランスとして活動する人気ブロガーかさこが、
好きを仕事にするブログ術&
セルフブランディング術を徹底指導します!

かさこワールド／つぶやきかさこの　アクセス推移と主な出来事



一発逆転ホームランを狙うより、毎日コツコツ、ヒットを重ねる人生を

はじめから成功する人なんて誰もいない。結果がすぐ出ることなんて稀。少しずつ地道に積み上げていけば、それが後々、大きな力になる。ホームページ立ち上げ当初は1日10アクセスしかなかった。コンテンツもほとんどない。でもあれから14年。毎日更新を続けた結果、著書出版につながったり、仕事の依頼が入ってきたりする。アクセス数も1日7000にまでなった。若いと結果をすぐ求めてがちだが、最低10年やり続ける情熱が必要だ。才能とは持続する情熱。好きを続けることが成功の近道だ。

時代を生き抜く4つの力

組み合わせ力

突出した才能を持ち合わせた人なんてそんなにいない。でも複数の能力を組み合わせれば、独自の価値を提供できる特別な存在になることができる。たとえば、私の場合、ライターとカメラマンを両方できるカメラライターであるがゆえに、仕事が舞い込んでくることが非常に多い。またライターでも金融ライターとなると数が激減する。こんな風に組み合わせを工夫し、キャリアを考えていきたい。また自分の能力に限界があったとしても、人と人とを組み合わせることで、大きな力を生み出すこともできる。人と組んで活動することで、お互いを補い合えたり、相乗効果で力が倍加したりする。自分にできないことはその道のプロに頼めばいい。私が監督となった映画はまさにチームだからできたこと。自立した個人が能力を持ちより、うまく組み合わせれば、一人では不可能だったことも可能になる。

様々な情報を組み合わせる能力=編集力も重要になる。企画書に説得力を持たせるために、どの情報を加えたらよいのかとか、プレゼンで納得させるにはどんな順番でスライドを作ったらいいのかとか。同じ情報でも組み合わせや順番の入れ替えや見せ方次第で大きく変わる。

形にする力

口ばかり達者な人は多い。アイデアがあるとわめいている人も多い。でも重要なのはそれを形にし、実行に移すことだ。言うだけで終わってしまう人と形にできる人とでは雲泥の差だ。

できないなんてあきらめる必要はない。やってみなければわからないのだから。失敗を恐れるから口先だけで終わってしまう。失敗したっていい。失敗から学べることも多い。とりあえずやってみる。とりあえず形にしてみる。いきなり完璧なものを作ろうとするから一生できない。まず完璧主義を捨てることだ。

私は趣味で音楽を作っている。2012年は3曲、2013年も3曲、レコーディングし、無料で配信している。音楽の質がどうのという以前に、仕事や映画づくりなど忙しい合間をぬって、本業とは関係のない音楽を6曲、作っている。「忙しいからできない」と言い訳する人がいるけど、申し訳ないけど多分あなたより私の方がはるかに忙しい。でもしたいことをするために、時間をやりくりしたり、短時間で仕事を終わらせる工夫をしたり、時間を作り出している。

ようは自分のやる気次第。形にした人だけがスタート地点に立てる。100の言い訳より1の行動を実践したい。

金(ゴールド)のポータルサイトを立ち上げたすごい方:児島一伸さん

1年前に仕事関係で知り合った方。金融業界から転身し、金融・投資関連のネットでの情報配信で独立し、十数年になる。2013年には金に関する情報サイト「GOLDNEWS」を立ち上げ。さらに、金の魅力を伝える冊子「GOLD MAGAZINE」を創刊。この冊子のすごいところは、投資に関する話は一切載せず、金のおもしろさを伝える内容が大半なこと。自分が作りたいものを作り、人が読んでおもしろいものを作るスタンスが徹底されている。この冊子に共同編集長という形で参加させていただき、執筆・撮影担当もしています。

●GOLDNEWS　http://goldnews.jp/　●フェイスブック　goldnews.jp

～個人が主役の時代に備えて

営業・宣伝・拡散力

いいものを作れば評価されるなんて思っているのは大間違いだ。自分の存在や作品を世に知らしめる努力をしなければ、どれだけ素晴らしい技術や作品があっても意味がない。営業・宣伝を嫌がっているようでは一人前にはなれない。世の中には腐るほど人がいて腐るほど情報や商品やサービスであふれている。それを広める活動は、作品を生み出すのと同じぐらい重要だ。

個人でもすぐにできる営業・宣伝方法は、ホームページやブログなど、ネット上で自分の存在を知らしめるものを作っておくこと。今も何件も仕事の問い合わせがネット経由で入ってくる。会社員時代は個人の営業をする時間がなくても、ネットがあれば自分が動かなくても、仕事が入って来る。SNSを使った拡散力も重要。自分に拡散力がないなら拡散力のある人と組めばいい。

2013年7月に「クリエイター EXPO」というイベントに9万円払って出展したのだが、ここで10数社と知り合うことができ、出展料の10倍以上もの仕事をいただいた。忙しいから出展をやめようかとも思ったが、新たな場に出て、いろんな人と出会うことでチャンスが広がった。営業努力や手間や投資を惜しんではならない。

セルフプロデュース力

自分の強みがわからない人が多い。なぜなら世間体や常識にとらわれ、目先の損得で計算ばかりし、自分の本質=好きなことがわからなくなっているからだ。好きでもないことが得意になるのは難しいし、多少うまくやっているように見えても、心の底から継続的に活動することはできない。セルフプロデュースの大前提は自分の好きなことを発見し、やる勇気を持つことだ。

その上で、自分をどう見せていくか。誇大に見せる必要はない。むしろ逆効果だ。ありのままを見せればいい。それで嫌だという人がいるなら仕方がない。無理していいところばかり見せようとしたって続かない。みんなにいい顔しようとするから個性がなくなり、存在価値が薄らいでしまうのだ。特定の誰かにピンポイントで好きになってもらえればそれでいい。

ただ大事なことはシンプルでわかりやすく自分を伝える情報発信をすることだ。ネット上のプロフィールしかり、名刺しかり。わかりにくいのは最悪だ。

私がわざわざお金と時間をかけて「かさこマガジン」を作ったのは、どんなことをしているかがすぐにわかってもらうため。様々なツールを活用し、自分を見せる工夫をしていきたい。

個人の宣伝ならセルフマガジン制作を!

個人をアピールする強力な武器としてぜひ作りたいのがセルフマガジン!この冊子がまさにセルフマガジン。初対面の人に冊子を渡すと、話す時間が少なくても、自分の活動を的確に伝えることができます。何より印刷物なので手に取ってぱっと見てもらえるのがいい。ネット全盛だからこそ、リアルからネットに誘導するためのツールとして活用したい。セルフマガジンは営業ツールにも。かさこマガジンは、今まで取引のなかった出版社などに送付し、仕事をいただくきっかけにもなっています。セルフマガジンの作り方については、講演DVDを販売予定です。

空気に負けない人間になれ

みんな空気に負けている。世の中のムードに流され、決められた常識を疑わず、周囲の無言の圧力に屈し、居心地の悪い生活を送っている。どうして「おかしい」と言わないのか。嫌われたくないから。みんなと一緒ならそれでいい。一億総玉砕思考だ。

私はブログで世の中の空気と戦っているのだと思う。読者の方から「こんなこと書いて批判されないんですか?」といわれるがむしろ逆だ。「よくぞ、書いてくれました! 私もそう思っていたんです」という意見の方が圧倒的に多い。みんなおかしな空気にうんざりしている。でも言えない。そこで私が言う。だから共感する。みんながよんでいる空気は表面的な空気に過ぎず、真の空気じゃない。

だから勇気を振り絞っておかしいと思うことは言えばいい。きっと他の人もそう思っているはずだ。誰かが言うのを待っているだけ。でも待っているだけでは人生も社会もよくならない。自分が言いだしっぺになれ。

私がブログで空気と戦う必要がなく、写真や旅行記だけ更新するのが理想だ。でもみんな言わないから、私が言う。それで一人でも多くの人が空気に負けず、自分の頭で考え、それぞれの立場で行動してくれたら、社会は必ずよくなる。すべては一人一人の行動次第。私もがんばる。

沖縄·竹富島·アイヤル浜

かさこプロフィール

年間約8万枚の撮影、年間約90万字の執筆をこなすカメライター

1975年生まれ、横浜市鶴見区在住。埼玉県立川越高校卒。中央大学法学部卒。1997～1999年、サラ金大手アイフルに勤務し、2年間で約10億円を融資する不動産担保融資のトップセールスマンに。1999年アジア放浪後、2000～2012年まで編集プロダクション3社に勤務し、編集・執筆・撮影を担当。2012年2月よりフリーに。写真集13冊、一般書籍6冊、合計19冊の著書。1日約7000アクセスを誇るブログを毎日更新。2014年、映画「シロウオ～原発立地を断念させた町」で映画監督デビュー。

かさこ活動理念

文章、写真などを通じて、多くの人に"気づき"を与え、それによって社会を良い方向に向けていく。

仕事：編集・ライター・カメラマン1人3役

- **媒体：**雑誌、会報誌、パンフレット、季刊誌、Webなど
- **分野：**旅行、金融、経済、投資、不動産、キャリアなど

■ かさこネットツール

- ホームページ「かさこワールド」http://www.kasako.com/
- ブログ「つぶやきかさこ」http://kasakoblog.exblog.jp/
- ツイッター「かさこ」@kasakoworld（フォロワー17820人）
- フェイスブック「かさこたか」kasakotaka（友達2271人）
- Youtube「かさこチャンネル」http://www.youtube.com/kasakotaka

読者のみなさまへのお願い

- 「これはいい！」と思う私のブログ記事があれば、どんどんシェア、リツイートしていただければうれしいです。
- 「こんなおもしろいことをしている人がいるので紹介したい／取材してほしい」「多くの人に知ってほしい体験があるので話を聞いてほしい」「業界の裏事情を話したい」「ぜひ読んでほしい本がある」「コラボして一緒に活動したい」など、何か情報がありましたら、遠慮なくメールください。
- 今号から「かさこマガジン」は広告をなしにして印刷費から配送代まで完全自費出版で発行しています。「無料でもらうのは申し訳ない」という方がいらっしゃれば、Amazonで買い物する際、私のブログ記事の最後のリンクからお願いできれば助かります（商品は何でも可）。購入代金の3～5%が私の収入になります。マガジンの発行費用にさせていただきます。
- 本誌「かさこマガジン」を多くの人に見てもらいたいので、多くの方に配っていただけたらうれしく思います。追加で必要でしたらお送りします。

連絡先　kasakotaka@hotmail.com